

平成 29 年度予算と主な取組について

1 市立千歳市民病院中期経営計画（改訂版）の目標・視点

総務省の「新改革ガイドライン」の要請により、「市立千歳市民病院中期経営計画（改訂版）」を策定していますが、目標・視点については、現計画をそのまま継承しています。

また、目標達成に向けた「数値目標」や「具体的な取組事項」については、平成32年度までの目標として見直しを図ったほか、新たな取組として「経営指標」に「医業収支比率」を、「医療機能等指標」として「常勤医師数」「紹介率」「逆紹介率」を、「具体的な取組事項」として「地域包括ケアシステムへの取組」を追加しています。

〈目標と5つの視点〉※改訂に伴う変更等なし

【目標】

『患者が「安心・安全な医療」を受けられるよう医療の質の向上を図るとともに、経常収支の黒字を維持し、経営の効率化に努めます。』

【視点】

- ① 地域医療の充実に向けた基幹病院としての役割の強化
- ② 安全で安心できる医療の推進
- ③ 医療・看護の質の向上とチーム医療の推進
- ④ 効率的な病院運営の推進
- ⑤ 医療従事者の勤務環境等の充実

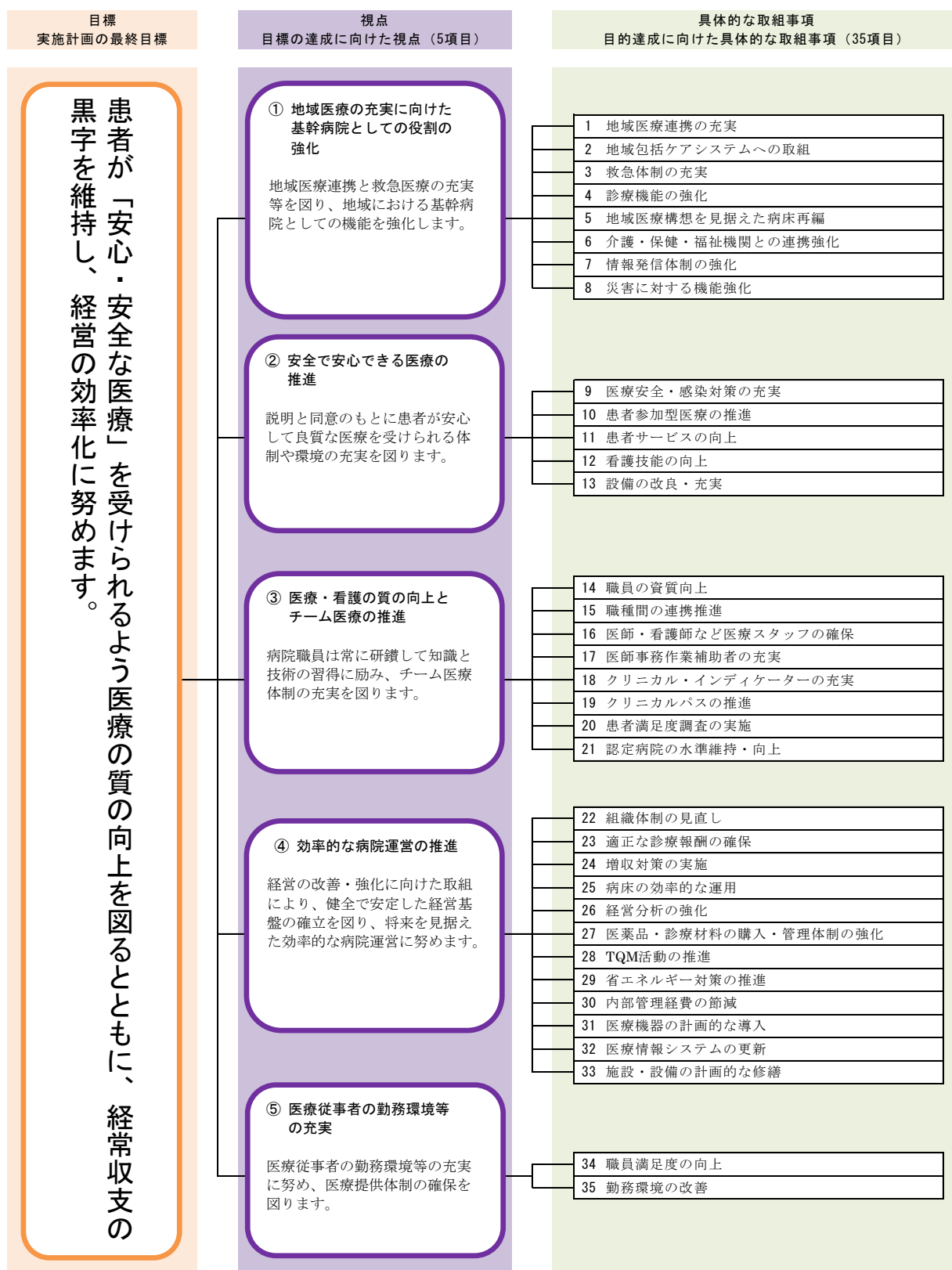
〈数値目標〉

主要な経営指標（9つ）及び医療機能等指標（3つ）について、次のとおり数値目標を設定します。

区 分		26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (見込)	29年度 (計画)	30年度 (計画)	31年度 (計画)	32年度 (計画)	※黒字公立 病院平均
経常収支比率		100.7%	99.3%	99.8%	100.3%	100.4%	100.7%	100.8%	103.2%
医業収支比率		95.4%	93.6%	93.5%	94.9%	94.7%	95.8%	96.2%	88.8%
病床利用率		75.5%	73.7%	79.6%	85.5%	85.5%	85.5%	85.5%	68.4%
1日平均 患者数	入院	143.4人	140.0人	151.2人	162.4人	162.4人	162.4人	162.4人	100人
	外来	738.4人	714.8人	705.4人	711.7人	713.1人	714.5人	715.9人	253人
職員給与費 対医業収益比率		46.8%	47.4%	48.4%	46.9%	47.1%	46.8%	46.9%	54.1%
材料費 対医業収益比率		20.9%	21.1%	21.4%	21.7%	21.7%	21.7%	21.7%	17.5%
患者1人1 日当たり 診療収入	入院	56,249円	57,520円	55,254円	57,552円	57,840円	58,361円	58,653円	30,761円
	外来	8,963円	9,121円	9,249円	9,616円	9,635円	9,693円	9,712円	9,598円
常勤医師数		35人	35人	33人	35人	35人	35人	35人	—
紹介率		21.1%	23.9%	25.4%	26.9%	28.4%	29.9%	31.3%	—
逆紹介率		13.0%	15.9%	18.0%	20.3%	22.7%	25.0%	27.4%	—

*黒字公立病院平均は、「平成26年度地方公営企業年鑑」同規模病院（100床以上200床未満）の数値

〈35 項目の具体的な行動計画〉



2 平成29年度予算について

① 収支について

区分	項目	平成29年度予算 (千円)
収入	経常収益	6,450,752
	医業収益	5,801,062
	うち入院収益	3,411,426
	うち外来収益	1,669,998
	医業外収益	649,690
支出	経常費用	6,430,267
	医業費用	6,112,632
	うち職員給与費	2,719,651
	うち材料費	1,258,646
	医業外費用	317,635
経常損益		20,485

平成29年度経常損益予算額は、2,048万5千円の利益（黒字）を計上しています。

収入・支出別に主な項目を見ますと、収入においては、医業収益のうち入院収益で34億1,142万6千円、外来収益で16億6,999万8千円、医業外収益では6億4,969万円を見込み、経常収益は64億5,075万2千円を見込んでいます。

また、支出においては、医業費用のうち、職員給与費で27億1,965万1千円、材料費で12億5,864万6千円、医業外費用では3億1,763万5千円を見込み、経常費用は64億3,026万7千円を見込んでいます。

なお、平成29年度は、計画改訂初年度予算となることから、計画額と予算額が一致しています。

② 平成29年度の主な取組

5つの視点に基づく35項目にわたる「具体的な行動計画」のうち、主な取組は次のとおりです。

「2 地域包括ケアシステムへの取組」

市民病院の電子カルテを中心に地域の医療機関等とネットワークを構築して診療情報を共有する「地域連携ネットワークシステム」を導入し、千歳市及び近郊地域における医療機関等の連携強化を図りながら、「地域完結型医療」の実現、さらには「地域包括ケアシステム」の構築に取り組みます。

〈平成29年度の取組〉

平成29年4月～6月：連携施設のパソコン設定作業

5月 ：平成29年度運営協議会総会開催予定

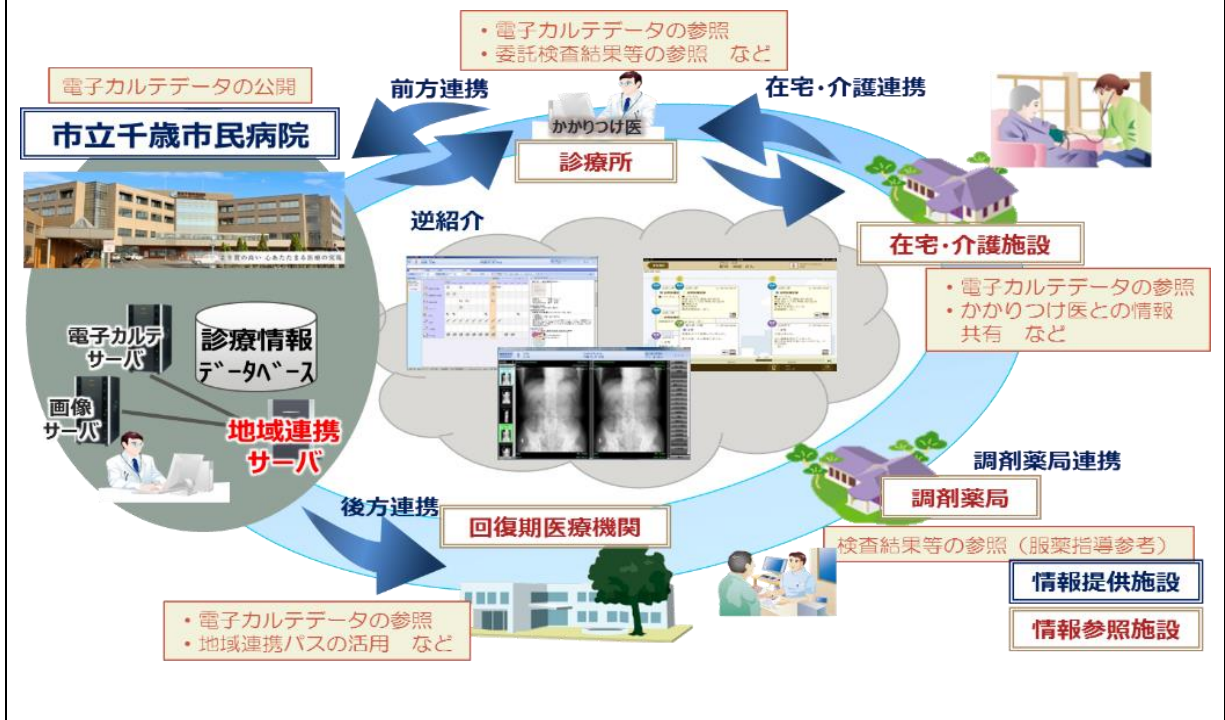
・事業計画、当初予算等の協議

7月 : 地域連携ネットワークシステムの運用開始予定

〈地域連携ネットワークシステムの概要〉

電子カルテを導入している基幹病院を中心に、地域の医療機関や調剤薬局、介護保険事業者などをネットワークで結び、基幹病院の電子カルテ（オーダー、検査結果、画像、レポート、プロフィール等）を連携先の関係機関が閲覧できるシステムであり、本システムを導入することにより1人の患者を複数の医療機関等が同一の情報を基に診ることができ、紹介・逆紹介がスムーズになるほか、検査や投薬の重複が避けられるなど患者負担の軽減にもつながるものである。

〈イメージ図〉



「3 救急体制の充実」

休日夜間急病センター開設に伴い、内科系の1次救急は休日夜間急病センターに移行しますが、内科系の2次救急と外科系の1次・2次救急は継続して実施します。

また、循環器科と脳神経外科は、年間を通じて2次救急に対応するなど、継続して重症患者の対応を中心とした救急医療体制の確保を行います。

小児科では、平日及び日曜日の1次救急を行うほか、年間を通じて2次救急に対応します。

〈平成 28 年度 救急外来患者及び救急入院患者数実績（全体）〉

区 分	平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月 累計 (前年同月比)	平成 27 年度 実 績	平成 26 年度 実 績
救急外来患者数	7,518 人 (▲47 人)	8,290 人	7,160 人
救急入院患者数	1,289 人 (+143 人)	1,242 人	1,299 人

〈平成 28 年度 小児科日曜救急患者数実績〉

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	累計 (前年同月比)
患者数	135 人	104 人	110 人	140 人	83 人	105 人	137 人	110 人	153 人	113 人	152 人	1,342 人 (+93)
外来	133 人	101 人	109 人	137 人	76 人	101 人	135 人	108 人	152 人	113 人	149 人	1,314 人 (+104)
入院	2 人	3 人	1 人	3 人	7 人	4 人	2 人	2 人	1 人	0 人	3 人	28 人 (▲11)

1 日当 り患者数 (単位:人/ 日)	33.8	26.0	27.5	28.0	20.8	26.3	27.4	27.5	38.3	28.3	38.0	29.2 人 (+1.4)
------------------------------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------------------

※ H28.4～H29.2 月診療日数：46 日

※ 患者居住地内訳：市内 992 人(72.8%)、恵庭市 291 人(21.3%)、その他 80 人(5.9%)

〈平成 29 年度 救急開設予定日数〉

区 分		平 日 (244 日)	土 日 祝 日 等 (121 日)	合 計	1 月当たりの 平均開設日数
内科系	1 次救急	19 日	11 日	30 日	6.0 日
	2 次救急	156 日	52 日	208 日	17.3 日
循環器科	2 次救急	216 日	90 日	306 日	25.5 日
外科系	1 次救急	16 日	9 日	25 日	2.1 日
	2 次救急	118 日	74 日	192 日	16.0 日
脳神経外科	2 次救急	125 日	60 日	185 日	15.4 日
小児科	1 次救急	244 日	49 日	293 日	24.4 日
	2 次救急	244 日	121 日	365 日	30.4 日

※ 内科系 1 次救急は 8 月末までの予定

「5 地域医療構想を見据えた病床再編」

北海道が策定した「北海道地域医療構想」では、二次医療圏毎の人口や必要病床数の推計等を示し、いわゆる「団塊の世代」がすべて75歳以上となる2025年を見据えた、地域における将来のあるべき医療提供体制の実現を目指しています。

市民病院では、平成29年3月から病床の一部を「地域包括ケア病床」に転換し、急性期治療を経過した回復期の患者に対して、在宅や介護施設への復帰に向けた、きめ細かなケアを行えるよう、地域医療構想を見据えた病床再編に取り組みます。

〈2025年(平成37年)必要病床数と病床機能報告数(平成27年)との比較について〉

病 床	数	合 計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	未 解 答
① 病床機能報告病床数 (平成27年7月1日時点)	全 国	1,244,629	169,367	592,634	129,100	353,528	あり
	北 海 道	79,585	7,778	36,806	5,868	26,653	2,480
	札幌2次 医療圏	34,683	4,276	15,376	2,218	11,877	936
② 2025年の必要病床数推計 (平成37年)	全 国	1,191,000	130,000	401,000	375,000	285,000	
	北 海 道	73,190	7,350	21,926	20,431	23,483	
	札幌2次 医療圏	35,786	3,913	10,951	8,923	11,999	
病 床 数 比 較 (① - ②)	全 国	53,629	39,367	191,634	▲ 245,900	68,528	
	北 海 道	6,395	428	14,880	▲ 14,563	3,170	
	札幌2次 医療圏	▲ 1,103	363	4,425	▲ 6,705	▲ 122	

※医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会（内閣府）資料、北海道医療計画[改訂版]
（別冊）－北海道地域医療構想－を参考

※医療・介護情報の活用による改革の推進に関する専門調査会（内閣府）資料では、2025年の必要病床数について、高度急性期13.0万床程度、急性期40.1万床程度、回復期37.5万床程度、慢性期24.2～28.5万床程度、全国の必要病床総数114.9～119.1万床程度と推計

「16 医師・看護師など医療スタッフの確保」

診療体制の充実を図るため、医師数の維持及び定着に取り組むとともに、大学医局への積極的な派遣要請活動や医師専門人材紹介システム（成果報酬型）の活用等を行います。

また、協力型臨床研修病院として、医育大学の臨床研修医を受け入れます。

〈臨床研修医の確保〉

北海道大学の臨床研修医1名を受入（2か月間：1名）

〈診療科別医師数の推移〉

(単位：人)

診療科	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度
内 科	5	5	5	4	3	2
循 環 器 科	4	4	4	4	4	3
消 化 器 科	3	3	3	3	3	3
小 児 科	4	4	4	4	5	4
外 科	4	4	4	4	3	3
脳 神 経 外 科	2	2	2	2	2	2
整 形 外 科	3	3	3	3	3	3
産 婦 人 科	3	3	3	2	2	2
耳 鼻 咽 喉 科	1	1	1	1	1	1
眼 科	1	1	1	2	2	2
皮 膚 科	2	2	2	2	2	2
泌 尿 器 科	2	2	1	1	1	1
麻 酔 科	1	1	2	2	2	2
合 計	35	35	35	34	33	30

※ 内科：非常勤嘱託医 1 名（週 5 日勤務）

「28 省エネルギー対策の推進」

CO2 削減を図る環境配慮行動の推進に努めるとともに、照明設備の LED 化などの省エネルギー対策を継続して取り組みます。

修 繕 内 容	金 額
院内照明設備の LED 化（総合待合、リハビリ室、内視鏡室、放射線室等） ・ 計画的に院内の直管蛍光ランプを消費電力の少ない LED 管に取り替えることで電気使用量を削減する。（平成 24 年度から継続）	5,120 千円
蒸気ボイラー用連続ブロー装置の設置（エネルギー棟） ・ 今まで屋外に放出していたブロー蒸気の熱量を熱交換機を用いて回収し、ボイラー補給水を加熱することで都市ガス使用量を削減する。	2,268 千円

「31 医療機器の計画的な導入」

医療機器等の整備には、医療機器の経年劣化やメンテナンスの終了などから、毎年2億円程度の費用を要しており、特に医療情報システムのうち、電子カルテの更新時期は、5億円を超える予算が必要となっています。

医療機器の購入に当たっては、基幹病院としての役割や地域の医療ニーズを踏まえ、緊急性・重要性から優先順位を考慮し、計画的に整備します。

診療科名	名 称	区 分	金 額
循環器科	超音波診断装置	【更新】	6,882 千円
消化器科	多目的アルゴンプラズマ凝固装置	【更新】	4,752 千円
小 児 科	新生児用蘇生装置・保育器	【更新】	6,053 千円
外 科	電気手術器	【更新】	5,940 千円
産 婦 人 科	母体・胎児集中監視システム	【更新】	6,783 千円
産 婦 人 科	分娩監視装置	【更新】	7,251 千円
眼 科	涙道内視鏡システム	【新規】	5,379 千円
眼 科	前眼部レーザー治療装置	【更新】	6,750 千円
麻 酔 科	全身麻酔装置	【更新】	7,722 千円
放 射 線 科	デジタルX線画像診断システム	【更新】	20,520 千円
臨床検査科	デジタル脳波計	【更新】	9,504 千円
臨床工学科	患者監視装置	【更新】	15,120 千円
手 術 室	手術台	【更新】	5,238 千円
手 術 室	無影灯	【更新】	6,480 千円

「33 施設・設備の計画的な修繕」

病院施設は、平成 14 年 3 月の竣工から約 15 年が経過し、医療機能や療養環境を維持していくため、大規模な施設・設備の修繕が必要となっています。

このことから、平成 23 年 10 月に策定した「中長期修繕計画」に基づき、適切な進捗管理を行い、建物や設備機器を常に良好な状態を保つとともに、コストの縮減と各年度の費用平準化を図ります。

修 繕 内 容	金 額
屋上防水・外壁タイル取替	33,480 千円
マルチパッケージ型エアコン取替（1 階放射線室系統）	26,460 千円
病棟用ナースコール機器取替（4 階）	10,800 千円
病室監視カメラ用ディスプレイ取替（4 階）	3,456 千円
火災報知用感知器取替（2 階）	2,808 千円